

地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日： 令和5年（2023年）4月4日

作成者：（課名） 市民協働推進課

（氏名） 公手 勤

1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市西谷地区まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	<p>【基本目標】</p> <p>6. 地域を学園とみて豊かな心を育むまちづくり</p> <p>【具体的な取り組み】</p> <p>1 学校教育の維持、継続への支援（学校の魅力発信を含む）</p> <p>2 学校を地域文化の拠点とみる住民意識の構築</p> <p>3 地域におけるトライやるウィークの推進</p> <p>4 コミュニティスクールの推進</p> <p>5 学校行事、体験学習、登下校時等への住民の協力</p> <p>6 地域の食材を活かした給食の推進</p> <p>7 地域住民のPTA・PTCA活動への参画、協力</p>
取組内容の関係課	教育委員会管理部学事課 教育委員会学校教育課

2 対話の状況

<p>（1）実施概要</p> <p>ア 日時： 令和5年（2023年）3月21日 13：30～15：40</p> <p>イ 場所： 西谷会館屋内活動室</p> <p>ウ 出席者： <まちづくり協議会> ●● <関係課> 教育委員会管理部高田部長、学事課今社課長、矢野係長 教育委員会学校教育課平野課長 <協働の取組推進担当次長> 小川次長 <市民協働推進課> 公手</p>
<p>（2）確認できたこと</p> <p>ア 会長から西谷地区の教育に関して状況について説明。 本日は、まち協としてこの地域をいかに良くしていくかという観点から、行政からも参加してもらい、地域と行政みんなで意見交換を行うという趣旨で開催するもの。 西谷小の在校生は60名、西谷中は39名、5年後には半減する見込み。まち協では未来の学校を考えるチームを発足した。また、移住・定住の事業により人口増への取組を進めている。</p> <p>イ 学事課から資料「子ども達の未来を育む小中一貫教育について」に基づき説明する。なお、西谷小中で小中一貫教育の実施が決定されているわけではなく、これから地域の皆さんとともに考えていきたい。 話し合いの中で言及のあった、令和4年11月28日のコミュニティスクールの会議で出た「小規模特認校」について説明する。</p> <p>ウ 地域から出席している地元住民の意見、行政職員は西谷の学校にどんなイメージをもっているかなど、西谷地区を取り巻く教育環境について、意見交換を行う。 ・西谷地域の子供たちが、他の校区から孤立することなく、学力を身に付け、グローバルな目線を持つことができるようにしてもらいたい ・少ない人数で学び続けることによる子どもの社会性の面や人間関係の固定化などへの不安がある ・形式的に制度を導入するのではなく、子ども目線はもちろん、教職員の負担、西谷の地域性など、様々なことを踏まえて今後の教育環境を考えてもらいたい ・南部や他市の高校に進学する際の高1ギャップ ・中学校では部活動の選択肢が少なく、部活動の地域移行も課題がある ・小規模校特有の問題もあるが、小規模校であることや西谷地域の強みを活かし、地域も支援しながら学校づくりができれば良いのではないかなど</p> <p>エ 今後も、意見交換の場を設け、継続的に議論を行い進めていく。</p>